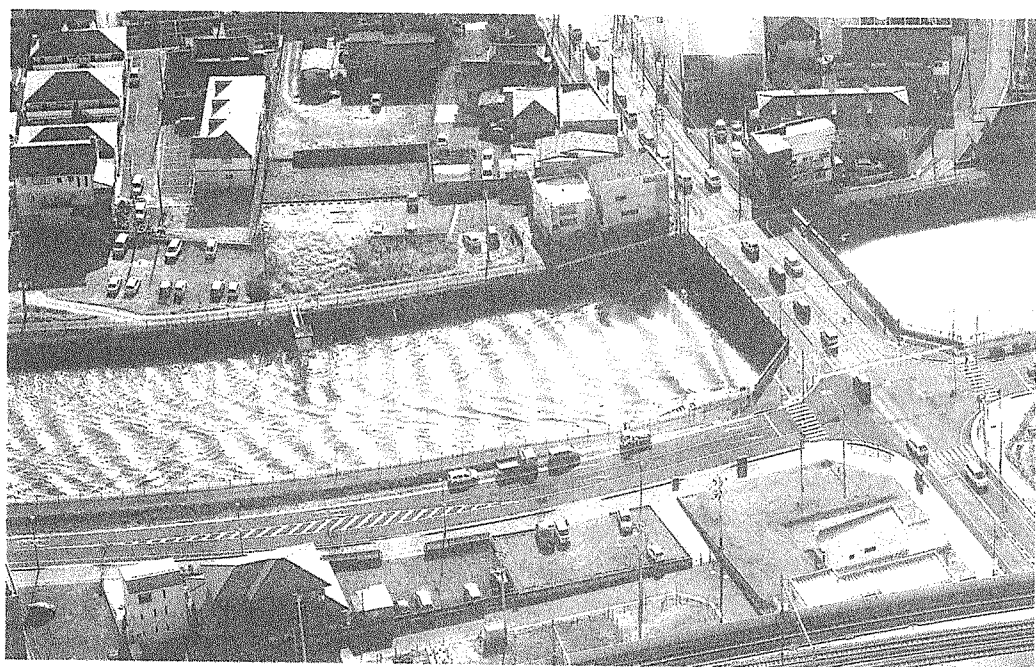


津波 東日本沿岸に



上流(右)方向に逆流する宮城県多賀城市の砂押川(22日午前10時18分、本社ヘリから)＝竹田津敦史撮影

福島沖M7.4

仙台1.4メートル

震災後最大

22日午前5時59分頃、福島県沖を震源とする地震があり、福島県白河市、いわき市、栃木県大田原市などで震度5弱を観測し、仙台市の仙台港では東日本大震災以降、最大となる1.4メートルの津波が到達した。津波は東北から関東の広い地域でも観測された。22日午後10時現在、震度3～1の余震が62回発生。活発な地震活動が続いており、気象庁は「揺れの強かった地域では、今後1週間程度は同規模の地震に注意してほしい」と呼びかけている。

△関連記事2・10・38・39面▽

気象庁によると、今回の地震は2011年3月の東日本大震災の余震とみられ、震源の深さは25キロ、マグニチュード(M)は7.4と推定される。北海道から中国地方の広い範囲で震度4～1の揺れが確認された。岩盤が引張り合ってずれ

る「正断層型地震」で、海底が大きく変化したため津波が発生したとみられる。同庁は午前6時22分に福島県、同8時9分に宮城県に津波警報を出すこともに、青森から千葉にかけての太平洋岸と伊豆諸島に津波注意警報を発令。午後0時

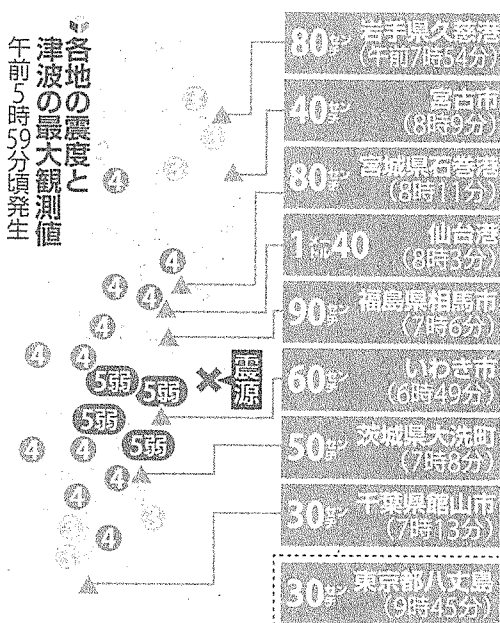
50分には全ての警報、注意報が解除された。

津波警報が発令されるのは、12年12月7日に起きた三陸沖を震源とする地震以来、約4年ぶり。福島県相馬市で90センチ、岩手県久慈市と宮城県石巻市で80センチの津波が観測された。

読売新聞の集計では22日午後5時現在、津波警報・注意報が発令された青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の6県で、避難指示・勧告、避難準備情報を出したのは50市町村。約1万2000人が避難所に身を寄せたが、夕方には全員が帰宅した。

総務省消防庁などによると、転倒など地震による重傷者は宮城、福島、千葉、東京の4都県で計17人にとった。

この地震の影響で、東京電力福島第二原子力発電所3号機(停止中)の使用済み核燃料プールの冷却が約1時間半にわたって停止、プールの水温が0.2度上昇して29.5度になった。放射性物質の環境への放出はなかった。



各地の震度と津波の最大観測値
午前5時59分頃発生

省庁連携し 情報を収集

22日早朝に起きた福島県沖を震源とする地震を受け、政府は首相官邸の危機管理センターに官邸対策室を設置した。関係省庁が連携して情報収集を進める構えだ。

菅官房長官は22日午後の記者会見で「気象庁からは『1週間程度は今回と同程

度の津波を伴う地震に注意する必要がある』と報告を受けている」と述べたうえで、「今後ともあらゆる事態を想定して万全の対応をとっていきたい」と強調した。アルゼンチン訪問中の安倍首相は22日朝、①津波や避難などに関する情報提供を的確に行う②早急に被害状況を把握する③被災者の救命・救助に全力で取り組む――よう関係省庁に指示した。